



# 奈良ゆかり探訪

第5回

～知ればその国の人に話したくなる～

奈良は東アジアから伝わった文化遺産にまつわるゆかりや、世界の国・地域との意外と知られていないゆかりがたくさんあります。普段見慣れた奈良の風景には、おどろくようなエピソードがいっぱい。

今月は、奈良とロシアのゆかりを紹介します。



▲万葉集をテーマにした県立万葉文化館(明日香村)

## 奈良×ロシア



### 奈良を訪問した女流歌人がロシア初の万葉集全巻翻訳

万葉集に魅了される文学者は国内にとどまりません。ロシアの女流歌人アンナ・グルースキナもその一人で、1928年に奈良、吉野、和歌山を訪れ、「万葉集や古今集にある歌そのものを見るようだ」と感動。1972年にロシア初の万葉集全巻の翻訳を発行しました。

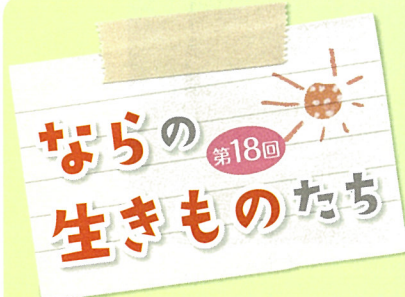
### 奈良筆に使用されるロシア産コリンスキー

奈良の伝統工芸品としてお土産にも人気の奈良筆。馬やリス、ウサギなど特性の異なる毛を組み合わせることで、弾力、強弱など仕上がりに変化が生まれます。イタチの毛も原料として使われますが、ロシア北部に生息するイタチを特にコリンスキーと呼び、その雄の尾毛は、柔らかさ、弾性、鋭さ、粘り等において、筆として最高の性質を有しています。

☎ 県国際観光課 ☎0742-27-8553 FAX 0742-23-0620



◀奈良筆



## フクジュソウ

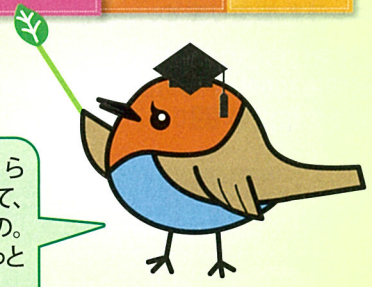
【種子植物キンポウゲ科】



五條市西吉野町の自生地

絶滅種 絶滅寸前種 絶滅危惧種 希少種

花がきれいだから採っていく人が多くて、絶滅の危機にあるの。もし見かけても、そっと見守っていてね。



コマドリ先生



奈良県では、最近、絶滅の危機にある生きものが増えてきているのよ。

原因としては、開発や乱獲、里山の荒廃、外来の生きものの侵入などが考えられているわ。ここでは、奈良県で特に注目されている生きものたちを紹介していくわね。

## Q & A

おしえてコマドリ先生!

Q: どんな植物なの?

A: 高さは15~30cmで、花は直径3~4cmほど。奈良県では2月上旬から3月上旬くらいに黄色の花を咲かせて、春を告げてくれるかわいらしい植物よ。でも、特に根に強い毒があるの。

Q: お店で売っているのを見たことがあるよ。

A: 新年を祝う花としてお正月用の寄せ植えなどに使われるけど、それは温室などで栽培されたものよ。すでに江戸時代の初めから観賞用として栽培されていて、100種類を超える園芸品種があったといわれているわ。

Q: どんなどころに生育するの?

A: 山地の落葉樹林の中や田畑のあぜに生育するのよ。日本では北海道から九州にかけて幅広く見られるんだけど、西日本には少ないの。奈良県では五條市西吉野町や天川村に自生しているわ。西吉野町の大きな群生地は貴重だということで、昭和48年に県の天然記念物に指定されたのよ。

☎ 県自然環境課 ☎0742-27-8757 FAX 0742-22-7060

奈良の生きもの情報調査 検索